資料２－２

総合企画専門委員会による現地調査（前期）の概要報告

１　目的

復興の取組状況や課題を実地に調査し、総合的、専門的な見地から復興計画の進捗に関する意見をいただき、「復興実施計画（第２期）」の推進に反映させる。

２　実施日／訪問市町村

平成26年６月３日（火）／ 岩泉町・山田町

３　調査内容

（1）　岩泉町

テーマ「暮らし」の再建
　　長期化している応急仮設住宅での生活における現状と課題
　　応急仮設住宅から災害公営住宅等への移転・移転後に係る現状と課題

- ➢ 小本駅を中心としたまちづくり（現状視察）
- ➢ 災害公営住宅及び応急仮設住宅相談員、支援員及び居住者との意見交換

（2）　山田町

テーマ「なりわい」の再生
　　水産加工業における現状と課題
　　仮設商店街における現状、今後の展開への課題

- ➢ 株式会社川石水産（現状視察・意見交換）
- ➢ 新生やまだ商店街協同組合との意見交換

４　調査者（委員７名）

斎藤委員長、豊島副委員長、谷藤委員、広田委員、平山委員、南委員、若林委員

５　調査概要

訪問先		調査内容／相手方からの意見　等
岩泉町	小本地区におけるまちづくりの現状視察	・三陸鉄道小本駅を中心に災害公営住宅、文教施設、漁集事業による集団移転地などを整備。 ・小本地区災害公営住宅を視察。
	災害公営住宅及び応急仮設住宅相談員、支援員及び居住者との意見交換	・これからのまちづくりを考えていかなければならない。応急仮設住宅と災害公営住宅が近く、寺、神社はひとつなので、自治会として分かれていても、**ひとつのコミュニティとしてゆるやかにつながっていける**のではないか。 ・生活再建するうえで、**漁集でも震災前に住んでいた土地の買い上げ、生活支援金の充実**をお願いしたい。
山田町	（株）川石水産との意見交換	・震災前に戻るだけでなく、**さらに良くなることが復興**である。 ・単発的な宣伝や表彰よりも、**長く売れ続ける商品づくりが重要。** ・県外の人に、**岩手のものを食べてもらう機会をもっと増やして欲しい**。食べれば納得してもらえるだけの良いものが岩手にはある。 ・震災後、定期便の輸送トラックがなくなったことで、遠方への出荷等に不便を感じている。**行政による補助等で**被災地を回る**定期便の輸送トラックを運行**してもらえば、沿岸の水産加工業者はとても助かるのではないか。
	新生やまだ商店街協同組合との意見交換	・（本設で）商店街が出来たときに、**以前のように客が戻ってくるのか不安。** ・震災の記憶がある子どもたちは故郷への想いもあり、地元に残ってくれるが、震災後の山田しか知らない子どもたちでも、**故郷に残ってくれるようなまちを作っていかなければならない。**

５　各委員からの意見

委員名	意見交換会等における意見
齋藤 委員長	○個人の生活再建は大変なことであるが、そこから発展する**みんなが住む場所としてのまちづくりも重要**であり、この土地**“らしいもの”を地域の人々が自ら考えながら作っていく**ことも必要。 ◆災害公営住宅や仮設住宅で生活する人に、**生きがいや希望が持てるような沿岸全体の将来像**を示すべきである。 ◆**人の命を救うことから、どういう地域を作っていくのかという目標、復興の形を示す時期**に来ているのではないか。 ◆三陸創造プロジェクトにおいても、**その取組によって日常の生活がどうなっていくのか**を示していくべきではないか。
豊島 副委員長	○震災前に住んでいて、今は**更地になっている土地について、水産加工場などの利用方法を考えていくことが大事**ではないか。 ◆被災前の集落への帰属意識と、移転後の新しい集落へのとまどいがあるようだ。そういう面で(消防団等の)**地域の機能集団がコミュニティづくりにおいて非常に重要**であると認識した。 ◆小本地区のまちづくりは、駅そのものがどうなっていくかで成否が分かれるのではないか。まちづくりが、駅の活用、三陸鉄道の利用と密接に関わっていく。
谷藤 委員	○「商店街はライフライン」という議論も分かるが、それでは今以上の発展はない。語り部の活動は観光の面で素晴らしいが他の地域でもやっているので、**産業振興を進める上でプラスアルファがほしい。** ○外部から技能をもった方が１人来ると５人分の仕事が生まれると言われている。**企業を誘致するより人の誘致の方が効果的。** ◆生産者のみで新しいことにチャンレンジするのではなく、多様な人材と連携を強化しながら、**地域全体でゆるやかに進める６次産業化**という方法もある。 ◆ハード整備が目に見えて進まないなかで、**企業や住民が次の手を打てない状況**である。 ◆**プロが認めるブランドがある企業は強く**、（被災で）販路が途切れても、復活できる。 ◆これほどの大災害でありながら、新しく出来る制度が無くて良いのか、**制度創設を訴えていく必要**がある。 ◆商業については、**人口以上の拡がりは見込めない**ので、これまでの取組＋αを頑張っていかなければならない。
平山 委員	○復興の過程で新しい商品が出来ても、それが店頭に並ぶ頃には既に他の製品が売れているという状況もあるので、何か**付加価値をつけていくこと**が必要。 ◆高齢者の居住が多い災害公営住宅において、入居者が**生きがいを見つけてもらうために、相談員や支援員を活用**することができないか。 ◆県の指標について、復興を実感できるようなものに見直すべき。復興の加速とともに、**次の社会のあり方を示すような指標**が必要ではないか。
広田 委員	○岩手大学では**Ｉターン、Ｕターン、地元出身者らによる「拡大コミュニティ」のモデルづくり**に取り組んでいる。この地域でも作れないか。 ○**地域の担い手として育っていく上では、子ども時代の楽しい体験が大事**。厳しい環境ながら、楽しい体験をさせないといけない。 ◆新たなまちづくりが進む中で、**残された集落へのフォロー**も必要。 ◆小本地区におけるまちづくりは、復興が進む過程の**モデル地区になり得る。** ◆商店街の再生に当たっては、**当事者の発想と意識を基に進めるべき**である。 ◆制度に縛られ過ぎずに、進めていくこと。**場合によっては進めてしまうという思い切りも大事**ではないか。緊急時の中の対応としては、通常時ではないかというような物足りなさを感じる。

南　　委員	○商店街は、様々な問題や障害を抱えていると思うが、**みんなが集まりながらモチベーションをあげていくような雰囲気**であって欲しい。 ◆**水産業が地元の復興を牽引**しながら、**地域全体を支えていくようなしくみ**が必要ではないか。 ◆**地元商店街の復活は復興のための根本的な課題**であり、県の取組の柱であるべきだが、三陸鉄道や復興道路など、**交通の活用について工夫や新たな発想が必要**。 ◆災害公営住宅の住民と、応急仮設住宅の住民との間で、コミュニケーションがとれていないと感じる。**町内会等の地域コミュニティの機能強化が必要**。 ◆**生きがいや希望としての三陸のビジョンを示す**ことが必要 ◆**復興の水準**（例えば漁家の場合、所得なのか水揚量なのか 等）**を明確にすべき**。
若林 委員	○**公営住宅に移った人たちの多くが高齢者**ということであり、駅が近く、駅に複合施設が隣接する予定でもあり、畑で何か作りながら、そうした場所で売るといった**「生きがいづくり」が必要**。 ○（山田町特有の立地として）**市場と商店街と病院が近いという特徴を今後のなりわいやまちづくりに生かす**ことができないか。 ◆住民自身が目的を持ちながら、**この先どのように生きていくのか、主体的に示していかなければならない**のではないか。 ◆**自治体が、強力なリーダーシップを発揮**することが必要。

○:意見交換会における発言

◆:まとめによる発言

〇小本地区のまちづくりを視察

〇小本駅を中心にまちづくりを整備

〇小本地区災害公営住宅を視察

〇小本地区住民等との意見交換

〇株式会社川石水産（水産加工業）

〇株式会社川石水産との意見交換

〇新生やまだ商店街協同組合との意見交換

〇山田町内仮設商店街